

医療機関76%で不具合

県内新規発行停止後 マイナ保険証調査

山梨県保険医協会(長田高典会長)は26日、健康保険証とマイナンバーカードを一体化した「マイナ保険証」について会員医療機関に実施した調査で、県内75医療機関のうち、57医療機関(76・0%)が2日に健康保険証の新規発行が停止されて以降に「トラブルがあった」と回答したと発表した。文字の誤表示や機器の不具合などが確認された。協会はシステムの早期改善と、現行の健康保険証の存続を求めている。(宇賀神将樹)

アンケートは13~20日に会員の医師、歯科医が勤務する275医療機関を対象に実施。このうち75医療機関(27・3%)から回答があった。2日以降に起きたトラブルの事例(複数回答可)では、「(氏名の漢字が正確に読み取れず)●(黒丸)が表示される」の37医療機関(49・3%)で最も多かった。「カードリーダーの接続不良・認証エラー」の22医療機関(29・3%)、「マイナ保険証の有効期限が切れていた」の14医療機関(18・7%)など続いた。「特にトラブルはない」は18医療機関(24・0%)だった。

2日以降の窓口業務の状況に関する質問では、16医療機関(21・3%)が「とても負担を感じる」、35医療機関(46・7%)が「負担を感じる」と回答し、合わせて約7割が負担感を感じていた。「変わらない」は22医療機関(29・3%)、「負担が減った」は2医療機関(2・7%)だった。伊藤龍吾事務局長はこの日、県庁で会見し、「早くシステムを改修し、しっかりと使えるものにしてほしい」と求めた。トラブル回避のためにも「現行の健康保険証を残し、マイナ保険証と併用できる仕組みが望ましい」と訴えた。